

浮嶋稻荷神社創建と朝日岳千年封じ



■ 威光寺 ←←← 558.142km ←←← 浮嶋稻荷神社 →→→ 558.142km →→→ 興福寺中金堂
→→→ 558.142km →→→ 興福寺五重塔

■ 興福寺中金堂

藤原鎌足夫人の鏡大王が夫の病氣平癒を願い、鎌足発願の釈迦三尊像を本尊として、天智天皇 8 年 (669 年) 山背国山階 (現京都府京都市山科区) に創建した山階寺 (やましなでら) が当寺の起源である。壬申の乱のあった天武天皇元年 (672 年)、山階寺は藤原京に移り、地名の高市郡厩坂をとって厩坂寺 (うまやさかでら) と称した。和銅 3 年 (710 年) の平城遷都に際し、鎌足の子不比等は厩坂寺を平城京左京の現在地に移転し「興福寺」と名付けた。この 710 年が実質的な興福寺の創建年といえる。中金堂の建築は平城遷都後まもなく開始されたものと見られる。その後も、天皇や皇后、また藤原家によって堂塔が建てられ整備が進められた。不比等が没した養老 4 年 (720 年) には「造興福寺仏殿司」という役所が設けられ、元来、藤原氏の私寺である興福寺の造営は国家の手で進められるようになった。しかし、1046 年に近隣の火災が延焼し、焼失。それ以降、6 回も再建されてきたが、すべて焼失。江戸時代に仮再建されたものは、老朽化のため 2000 年に解体されたままになっていた。

興福寺の中金堂は、藤原不比等が中心となって 714 年に完成した。丈六の釈迦如来像、菩薩像 4 軀 (十一面観音二軀、薬王・薬上菩薩)、四天王像、2 組の



弥勒浄土像が祀られ、藤原氏の氏寺らしい、とても華やかなものだった。

五重塔は天平 2 年 (730) 光明皇后の発願により建立された。東金堂は神亀 3 年 (726) 聖武天皇の建立。
奈良県奈良市登大路町 4 8

※写真は左上から右下にかかる線が円周ライン。

■浮島稲荷神社

大沼は、湖畔にある浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行われた。739 年には行基が訪れ浮島 66 個に国の名前を付けた。建久

4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。 山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真奥の鳥居のある動かない島）が起点となっている。

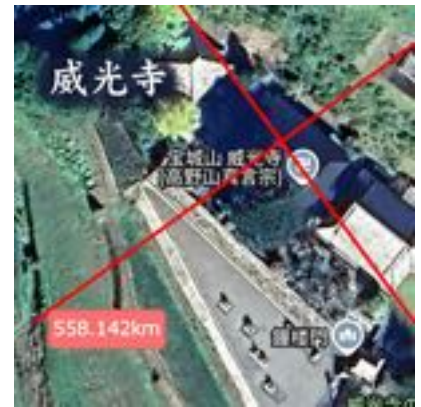


威光寺

修験の三岳山南麓に建つ威光寺は、真言宗醍醐派修験道の開祖であり、世界遺産の京都・醍醐寺の開祖である理源大師聖宝が昌泰年間(898~901)に開創したと伝えられる古刹。三岳山の修験と理源大師の関係については不詳であるが、修験道が結びつける何かが存在したのでは。往時には大いに栄えたが、盛衰を繰り返したといわれる。下佐々木集落の山手に石垣を組んで建つ威光寺の風景は往時の隆盛を偲ばせる。

http://tempsera.at.webry.info/201511/article_67.html

京都府福知山市下佐々木742

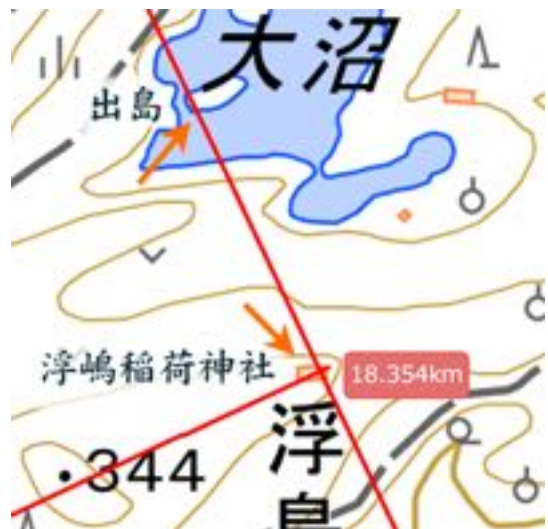


●浮嶋稲荷神社創建のしくみではないか。このしくみが浮嶋稲荷神社の

初お目見えになる。730年に「大沼社を南西の丘に移す」という記述があり、興福寺が中金堂と同距離に同じ730年に五重塔を作り、大沼浮島の気を引き寄せるしくみになっている。6年前の724年には、宮城に多賀城が造営され、いよいよ東北部は制圧されている。681年に役の小角が来てから50年後のこと。

898~901年に開かれた威光寺とのつながりは分からないが、菅原道真が活躍し左遷された頃のこと。大沼浮島の下流にあたる大谷地区に道真の側室一統が移り住んできた頃と重なる。

浮嶋稲荷神社の位置と歴史



■ 浮嶋稲荷神社 ←←← 18.354km ←←←大朝日岳山頂→→ 18.354km →→大沼出島

●大朝日岳山頂から大沼の出島と同じ距離に浮嶋稲荷神社を建立してある。おそらく本当はあと5m前に建てて出島の中央と同距離にしたかったのだと思うが、社殿の前は切り立った崖なのでこれでギリギリだったのだと思われる。大朝日岳の大日如来のご神気を、朝日岳修験の本拠地に引き寄せるための祭祀線といえる。興福寺は大朝日岳の大日如来の神気も引き寄せていることになる。

蝦夷討伐と浮島稲荷神社の歴史

- 齊明 4 年 (658) 安倍比羅夫 日本海側の蝦夷を打つ ～660
- 白鳳 9 年 (680) 役の小角 大沼浮嶋稲荷神社草創
大谷川に流れてきた梵字の書かれた板碑を見つけて、上流に向かい大沼を見つけた
- 持統 10 年 (696) 大沼大行院系図 弘道脇書に 朝日権現堂再興するとある
- 文武天皇 3 年 (699) 天皇に謀叛を企んでいるという讒言を受け、役小角が大島へ流刑になる
伊勢神宮成立。ただし 5～7 世紀には存在していたとされる。
- 和銅元年 (708) 出羽に越後国出羽郡を新設 出羽柵 最上川より南の地域 朝日町 (朝日岳・大沼) は出羽郡
- 和銅 2 年 (709) 大沼大行院系図 (3 代) 弘道脇書に、朝日山箕輪において大宿を立つ (建てる) 極楽寺と号すとある
蝦夷反乱。
陸奥に巨勢麻呂将軍、出羽に佐伯石湯将軍を派遣。蝦夷を伐る。陸奥守上毛野小足死亡
- 和銅 3 年 (710) 平城京はじまる。京都伏見稲荷神社創建。興福寺創建。
- 和銅 4 年 (711) 稲荷神社総本宮の伏見稲荷大社創建。
- 和銅 5 年 (712) 越後国から出羽国分離 最上・置賜二郡を出羽国 山形県全体が出羽国に
『古事記』 献上
- 養老元年 (717) 日本最古の厄除霊場 松尾寺建立。
- 養老 4 年 (720) 陸奥守 上毛野広人 9 月出羽軍の蝦夷の反乱により殺害される
陸奥に多治比将軍 出羽に阿部駿河将軍を派遣
陸奥按察使の管轄範囲に出羽国も含まれる
『日本書紀』 成立。
- 養老 6 年 (722) 蝦夷鎮撫の拠点「陸奥鎮所」を多賀城付近に置いた。多賀城の前身とされる。
- 神亀元年 (724) 陸奥守 大野東人 多賀城を築城 本格的な陸奥支配が始まる
3 月蝦夷の反乱に藤原宇合が征夷持説大將軍として派遣。騒ぎは出羽にまで及ぶ。
- 神亀 5 年 (728) 大沼大行院系図の (4 代) ぎ道の脇書に 朝日山十谷原に二之宿を立つ。とある。
- 天平 2 年 (730) 〃 草堂だった大沼社を神池の坤丘に移した。とある。興福寺五重塔を建立する。
- 天平 9 年 (737) 宮城県丸森の宗吽神院が、聖武天皇の勅願により蝦夷撫育のため開基された
- 天平 18 年 (746) 慈恩寺創建 聖武天皇の命により行基が地を選び年婆羅門僧正が開基
- 持統 10 年 (756) 朝日権現堂再興。このあたりに八幡社、大黒堂。白滝に弁財天を建立
- 天平宝字 7 年 (763) 大沼大行院 6 代雲道脇書に、朝日峯中の法則を相承したと記されている
- 宝亀 5 年 (774) 出羽国志波村の蝦夷が制圧される
- 宝亀 12 年 (781) 桓武天皇即位 ～806 年まで 二つの大きな政策は、首都造営と征夷 (北方蝦夷の討伐)
- 延暦 13 年 (794) 平安京はじまり
- 延暦 20 年 (801) 坂上田村麻呂が蝦夷討伐 翌年アテルイ大阪で斬首
- 延暦 21 年 (802) 大和朝廷が蝦夷を併合。日本を大和と呼ぶようになる。

●歴史を見ると、出羽の蝦夷討伐とともに大沼や朝日岳は朝廷側のものにされたことがうかがえる。山形内陸部は、深い山で囲まれ自然の要塞になっている。658 年から安倍比羅夫が日本海側から攻めてきて、まず庄内の蝦夷を討伐したのだろう。しかし、そこから内陸に入るためには山に囲まれた最上川 (最上峡) を開かなければならない。きっと時間をかけ、じわじわと内陸に攻めてきたのだ。

680 年に出雲族の役の小角が大沼を開いた。しかし、まもなく 708 年には出羽郡が作られ、出羽全体は朝廷側のものとなった。712 年には『古事記』、720 年に『日本書紀』が完成している。まるで

出羽の朝日岳・大沼の攻略を待って日本の歴史が書き換えられたように感じる。

730年には役の小角が弁才天を祭った大沼社（出島の弁才天を遥拝する社だったはず）を現在地に稲荷神として移している。朝廷側の秦族が弁才天を宇迦之御魂命の稲荷神社にすり替えたのだと思う。ただ、出雲族は天孫族に国譲りしてから瀬織津姫を弁才天に隠して祀っていたらしい。また宇迦之御魂命は竜蛇神の宇賀神という考え方もあり宇賀弁才天となる。どちらも元々は瀬織津姫だったのかもしれない。

●さて、この祭祀線には鎌倉時代に継ぎ足された歴史がある。



■威光寺←←← 267.473km ←←← 鳴無神社 →→→ 267.473km →→→興福寺中金堂



鳴無神社（おとなしじんじゃ）

祭神は一言主命。本殿・幣殿・拝殿は国の重要文化財に指定されている。参道が海に向かって延びており、「土佐の宮島」とも称される。社伝によれば、葛城山に居た一言主命と雄略天皇との間に争いがあり、一言主命は船出して逃れた。雄略天皇4年の大晦日にこの地に流れ着き、神社を造営したのが始まりであるとされる。実際は、鎌倉時代の建長3年（1251年）に創建されたようである。一言主命は土佐国一宮の土佐神社と同じ祭神であるが、土佐神社は当神社の別宮であったとされている。江戸時代に入り土佐藩2代藩主の山内忠義の命により社殿が造営され、境内が整備された。

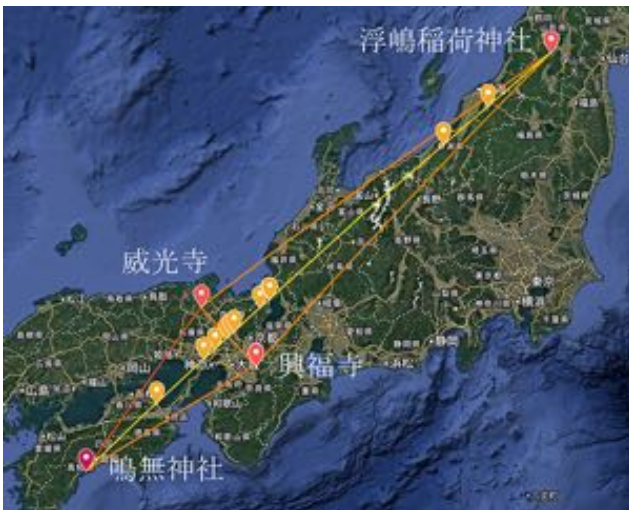
高知県須崎市浦ノ内東分



●これは封印型の祭祀線かもしれない。鎌倉時代に北条側が朝日岳信仰を攻略するために、奈良時代のこのしくみを利用してしくんだのではないだろうか。なぜなら、鳴無神社の創建は1251年。この頃、北条時頼が執権となり（1246～1256）朝日岳信仰が千年封じにされ、日高見国の安東（安藤）家も幕府にとりこまれ、出雲王国の火は消された。

とはいえ、鳴無神社の祭神は出雲系の一言主命。残忍で冷酷な雄略天皇と争って葛城を出て土佐に流れ着き神社を造っていた。その時の古い祭祀線なのかもしれない。その祭祀線を北条家が使ったのではないか…

●鳴無神社から浮嶋稲荷神社に至るライン上には11ヶ所の自然聖地や寺社が連なっていた。



■翼山(南峰)山頂 山頂に弁財天の祠がある。香川県東かがわ市引田

■紫大明神社・安産地藏尊 詳細不明 兵庫県神戸市西区押部谷町木津

■塩田八幡宮の境内社 詳細不明

●塩田八幡宮について

当宮 創始不詳ではあるが大同年間(810頃)には「大歳神社」と称し、御歳神を奉祀すると古記録に見える。その後、山城国(京都府八幡市)石清水八幡宮より 応神天皇・神功皇后・玉依姫命(比咩大神)の御神霊を勧請合祀され 石清水八幡宮別宮「塩田八幡神社」と称せられた

摂津国塩田庄なるこの地は 鳥羽天皇(1103~56)のころ 后妃女房 美濃局の荘園ともなったが 保元元年(1156)以前には 石清水八幡宮への寄進により 同宮並に宿院極楽寺領荘園となり 神宮寺としての体裁を成した

兵庫県神戸市北区道場町塩田 3238 番地

■剣尾山山頂

剣尾山の頂上は岩盤が露出し、「イワクラ」を想わせる環境である。展望も良好で、北西は丹波の山並みが見渡せ、東は京都市内の山々も部分的に見え、南は大阪湾が遠くに見える。当寺の縁起によれば、聖徳太子の命により日羅上人が開創したといわれ、広域な山上には七堂伽藍の荘厳が奇岩霊木とともに聳え立ち、霊山として近隣に知られてきたといわれる。

大阪府豊能郡能勢町山辺 剣尾山

■太平山城跡 詳細不明 京都府亀岡市東本梅町東大谷

■八幡山山頂 詳細不明 京都府南丹市八木町玉ノ井

■林慶寺 曹洞宗 詳細不明 滋賀県高島市朽木麻生 893

■田屋城跡

田屋城は森西集落の西に聳える標高 310.1m の山に築かれている。築城年代は定かではないが田屋山城守吉頼によって築かれたと云われる。田屋明政は浅井亮政の娘婿であったが、田屋氏の消息は天正3年(1575年)大處神社棟札銘の田屋淡路守重頼を最後に途絶えている。現在はよく歩かれた堀底道が南東虎口まで続いており、城跡は展望所などが設けられて整備されている。

滋賀県高島市マキノ町森西

■八幡神社

祭神/慶神天皇 明細書に創祀年代等不詳であるが、社伝によると応神天皇の御子隼総別皇子押戸水尾神社の社殿を再建し給ひし時、共に三尾郷三尾川上流最高の浄境鳳嶺に父天皇を奉斎し給ひしと言う。故に爾来水尾神社の祭日には其の縁由を以って本社にも神供を献じて祭祀を奉仕すること今日に変わらず。

滋賀県高島市畑 591

■諏訪社 詳細不明 新潟県柏崎市田屋 7381

■瑞祥寺

曹洞宗、1774年、(安永3年) 無学絶宗和尚(むがくぜっしゅうおしょう) が開山。瑞祥寺には無学絶宗和尚が書いた昇り龍が寺宝「火伏せ龍」として祀られています。この「火伏せ龍」は五穀豊穡をもたらす慈雨を降らし、時に私たちの住む世界を焼きつくす猛火を消して、幸をもたらす龍として受け継がれてきました。

新潟県五泉市五十嵐新田 40 番地

●このライン上は興福寺とつながれるので朝日岳信仰が衰えてもつながるメリットはある。ラインから 10m 以内の寺社も含めればもっとたくさんあったがピンポイントのみを取り上げた。不思議なのは三ヶ所の山頂があった。このラインに合わせて盛土したのだろうか。諏訪社があるのは大沼が朝日岳信仰の拠点だからありえる。二ヶ所の城址には必ず鎮守の神が祀られていたはず。そして気になるのが戦いの神の八幡神が三ヶ所あった。やはり北条時頼が朝日岳信仰封じのために置いたのかもしれない。

朝日岳信仰について

■大朝日岳(朝日連峰・朝日岳)

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳8年(7世紀末)、朝日嶽、岩上嶽(祝瓶山)に役行者が参籠修行し開山したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』(1505年)によ



ると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天(初頭神は大山祇神)、女躰権現は大日如来(木花咲耶姫命)、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼(1246~56)によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

●三処とは、大朝日岳、中岳、西朝日岳ではないかと思われる。

■五所神社由緒(伝わる朝日岳信仰の由来)

五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳8年(7世紀末)、朝日嶽、岩上嶽(祝瓶山)に役行者が参籠修行し開山したという。その後、聖武天皇の治世、天平3年(731年)、川口寺が建立され、宝亀5年(774年) 桑沢口に岩上寺が建立され繁栄し、その繁栄は約400年続いた。天喜年間(1053年・1058年)、前九年の役(源義家と、安倍貞任の兵乱)により朝日、岩上の霊地は衰退の一途をたどっていた。

その後、再び出羽国を訪れた源義家は、寛治4年(1090年)当麻秀則を遣わし、祭地青木野に朝日岳大日靈貴命・月ヶ峰月読命・岩上別雷神・小朝日金山彦命・三瀨建御名方命の五ヶ所の尊霊を移し合祭したのが朝日山五所大明神で



ある。この時から地名も五祭所と改められ、一郷の産土氏神として奉斎し、当麻秀則に永く留まらせ、祠を守らせたとある。

伝承

五所神社には三湍（みふち）の神が祀られている。『卯の花姫伝説』では、前九年の役で敗れた悲運の武将、安倍貞任の娘、卯の花姫が三湍の滝に身を投げ、龍神となって祀られたものといわれている。長井市では約40の神社において勇壮な黒獅子祭が行われている。寺泉五所神社の黒獅子祭の時には、この龍神が雨を降らせ、最上川支流の野川を、波飛沫をあげて下ってくるといわれる。その姿を演じたものが黒獅子舞といわれ、伝承のごとく黒獅子舞の10メートルもの大幕には水流の激しさを表す水玉の波飛沫と波模様が染め描かれている。

修験

東北地方では神社の祭祀に修験者が関わってきた例が多く見られ、五所神社も古くから代々、修験東性院が別当として祭祀に関わってきた。羽黒派十二先達の一である東性院は天長年間（824年 - 834年）に寺泉村の道者屋敷に、朝日山別当の岩上寺を開いた宥善法師を開基とし、明治初年の神仏判然令の影響下、明治3年（1870年）に復飾し神主となった永恭まで、46代にわたって相続してきたと伝えられている。中世、朝日岳を中心に朝日修験が盛んであったが、羽黒修験との勢力争いに敗れ、衰退したと思われる。鎌倉時代、朝日山地周辺には、平氏の残党などが山伏となり、横暴を極めたので、北条氏が千年封じを実施したとの伝説がある。その際に、僧坊を破毀、仏像を川に投棄するなどの弾圧により朝日山地の信仰は衰え、朝日修験の勢力も弱体化したと言われている。東性院も、朝日山五所大明神の別当を代々務めてきていたことから、当初は朝日修験であったものが、時代を下るなかで羽黒修験となったものと考えられる。

※ウィキペディア「五所神社」より抜粋

●昭和59年に出版された「朝日岳の歴史をたずねて」長岡幸月著（朝日町）で、門外不出の朝日岩上由来記（貞観10年（868））の原文を読むことができた。驚いたことに長井市における源義家親子による安部貞任討伐について詳しく書いてあるのだが、義家に追われ川口寺が匿っていた貞任のことを、唐沢口の岩上寺が義家に注進している。義家は岩上寺を先陣とし川口寺を攻めて、貞任は奥州に逃げ、川口寺と宿坊三千坊の歴史は断絶したとある。川口寺 vs 岩上寺だったのである。朝日岳信仰には朝廷派と出雲派と二つの修験が同居していたようである。

●さて、鳴無神社から浮嶋稲荷神社ではなく、大沼の弁才天が祀られている「出島」に直接ラインをつなげてみた。古い祭祀線はほとんどがこの出島につながっている。すると、



■塩田八幡宮

当宮 創始不詳ではあるが大同年間（810頃）には「**大歳神社**」と称し、御歳神を奉祀すると古記録に見える。その後、山城国（京都府八幡市）石清水八幡宮より 応神天皇・神功皇后・玉依姫命（比咩大神）の御神霊を勧請合祀され 石清水八幡宮別宮「塩田八幡神社」と称せられた

摂津国塩田庄なるこの地は 鳥羽天皇（1103～56）のころ 后妃女房 美濃局の荘園ともなったが 保元元年（1156）以前には 石清水八幡宮への寄進により 同宮並に宿院極楽寺領荘園となり 神宮寺としての体裁を成した

兵庫県神戸市北区道場町塩田 3238 番地

■願成寺

曹洞宗の寺院です。願成寺の創建は文亀2年（1502）に前屋城主白意全教大禅定門が開基となり 滝谷慈光寺 8世堅室宗玉和尚が開山しました。江戸時代には総持寺の輪番寺として10万石の格式をもち明治3年（1870）には随意会免牘を受けるなど大きな影響力を持ちました。

新潟県五泉市川瀬 518

●前述の浮嶋稲荷神社のラインでは塩田八幡宮の境内社を通ったが、こちらはしっかり本殿を通っている。一つの神社で二ヶ所を通っているのは怪しい。元々は出雲系の大歳神を祀り朝日岳信仰と繋がっていた神社にわざわざ天孫系の八幡神を勧請し大沼の弁財天を抑え、さらに境内社は浮嶋稲荷神社攻略のために勧請されたのではないか。やはり執権時頼のしわざに思えてしまう。もしくは、八幡神は源義家が安倍貞任を匿っていた朝日岳信仰攻略のために勧請したのかもしれない。妄想はまたまた膨らむ。



(2025年10月に祭祀線を調べ直して更新済み/竜天太陽 記)